

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2020.11

No.128

会報

目次

■ 令和3年度（第43回）通常総会のご案内	1
■ 第10回 富澤基金贈呈式のご案内	1
■ 第43回（2020年）日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その5）	2
■ 理事長メッセージ（2020年10月）「明日のために、その3」	5
■ 第44回（2021年）日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その1）	6
【年会長の挨拶 その1】	6
【年会組織】	7
【プログラム概要】	8
【公募シンポジウム・ワークショップの企画公募について（1月29日締め付け）】	10
【一般演題 発表分類一覧】	12
【日程表（予定）】	13
■ キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2020	14
あなたのその研究テーマ、続けますか？ 変えますか？	
海外へGO!?	
■ キャリアパス委員会報告	15
■ 会員専用ページの利用について	15
■ 高校などへの講師派遣について	16
■ 第22期理事選挙結果について	17
■ 第21期第3回（臨時）理事会記録	18
■ 第10回（2022年）日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ	22
■ 国際会議支援システム利用について	23
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	24
■ 第21期役員・幹事・各委員会名簿	25
■ 賛助会員芳名	26



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>



第44回

日本分子生物学会年会

The 44th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan

Many thanks to Yokohama, See you again!

2021年12月1日(水)~3日(金)

パシフィコ横浜

年会長

塩見 美喜子

(東京大学大学院理学系研究科)

<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2021/>

■演題登録期間 ※予定

2021年7月1日(木)~7月30日(金)

■事前参加登録期間 ※予定

2021年7月1日(木)~10月6日(水)

第44回日本分子生物学会年会事務局(株式会社エー・イー企画内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 ニツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479
E-mail: mbsj2021@aeplan.co.jp

令和3年度（第43回）通常総会のご案内

令和2年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 阿形 清和

以下の要領で第43回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

ご承知のように、本法人の重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の1/2以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

記

日 時：令和2年12月3日(木) 18:30～19:30

会 場：MBSJ2020 Online（第43回日本分子生物学会年会〔オンライン開催〕）チャンネル1

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2) 令和2年度（2020年度）決算承認の件

3) 令和3年度（2021年度）活動予算書承認の件

4) その他

◎以下のいずれかの方法でご出欠回答をお願いいたします。

ご都合がつかない場合には、必ず委任状をご提出ください。

①学会ホームページに設置されている回答フォーム

（右のQRコードや年会サイトに設置のリンクボタンもご活用ください）

②学会よりメール配信された回答フォーム使用によるメール送信

③新年度の会費請求書（10月下旬発送）に同封されている出欠はがき



第10回 富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子基金」による第10回（2020年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長 阿形 清和
基金運営委員会委員長 小原 雄治

日 時：令和2年12月3日(木) 19:30（総会終了後）～20:00 予定

会 場：MBSJ2020 Online（第43回日本分子生物学会年会〔オンライン開催〕）チャンネル1

第10回助成者：

岡本 直樹（筑波大学 TARA センター / 申請時の所属はカリフォルニア大学リバーサイド校昆虫学分野）

古藤 日子（産業技術総合研究所生命工学領域生物プロセス研究部門）

金 尚宏（東京大学理学系研究科生物科学専攻）

田渕 理史（Department of Neurosciences, Case Western Reserve University School of Medicine）

藤井 壮太（東京大学大学院農学生命科学研究科）

星野 歩子（東京工業大学生命理工学院 / 申請時の所属は東京大学 IRCN）

第 43 回日本分子生物学会年会 MBSJ2020 Online 開催のお知らせ（その 5）

会 期：	2020 年 12 月 2 日(水)～ 4 日(金)（3 日間）
会 場：	オンライン開催 ※シンポジウム・ワークショップはウェビナー形式でのライブ開催の後、録画配信を許可された演題については 12 月 11 日(金)までオンデマンド配信を予定しています。
年 会 長：	上村 匡（京都大学 大学院生命科学研究科）
年会事務局連絡先：	第 43 回日本分子生物学会年会事務局（株）エー・イー企画 内） 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階 Tel：03-3230-2744 Fax：03-3230-2479 E-mail：mbsj2020@aeplan.co.jp
年会ホームページ：	https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

シンポジウム	フォーラム	キャリアパス委員会企画
ワークショップ	バイオテクノロジーセミナー	高校生研究発表
ポスター	ショーケース（シーズプレゼンテーション）	機器・試薬・書籍等附設展示会（オンライン）

【参加登録に関するご案内】

○参加登録手続きについて

事前参加登録は 10 月 30 日(金)に締め切りました。以降の参加登録受付は 11 月中旬（予定）よりオンラインでの直前-当日参加登録にて受け付けいたします。直前-当日参加登録での決済方法はクレジットカード決済のみとなりますので、ご注意ください。なお、オンライン上で事前参加登録を行った場合でも、11 月 4 日(水)までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、直前-当日参加登録を行ってください。

事前参加登録者には 11 月中旬に、ログイン用 ID/ パスワードをメールにてご送付いたします。

その他、参加手続きに関する詳細は、年会ホームページをご確認ください（<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>）。

○参加登録費

	事前参加登録 ～ 10 月 30 日(金)	直前-当日参加登録 11 月中旬～ 12 月 11 日(金) クレジットカード決済のみ
正 会 員	5,000 円	6,000 円
学生会員	1,000 円	2,000 円
非 会 員	10,000 円 ※プログラム集含む	11,000 円 ※プログラム集（PDF）含む
学部学生	500 円 ※演題投稿者、院生は対象外	

参加登録費の税区分：会員は不課税、非会員は税込

※学会年会費と年会参加費は異なります。演題投稿には両方を納入する必要がありますので、ご注意ください。

※会員のプログラム集冊子の代金は、学会年会費に含まれています。年会への参加登録の有無にかかわらず、

11 月中旬に学会事務局より全会員へプログラム集冊子を郵送いたします。

※事前参加登録を行った非会員には年会事務局よりプログラム集冊子を郵送いたします（海外在住および直前-当日参加登録を行った非会員参加登録者へは PDF データでの送付となります）。

※プログラム検索・要旨閲覧システムの代金はすべてのカテゴリーの年会参加費に含まれています。

※シニア会員と次世代教育会員は、直接、年会事務局（mbsj2020@aeplan.co.jp）にお申込内容（①氏名②所属③会員番号）を明記したメールをご送付いただき、申し込んでください。

【オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム】

○プログラム検索・要旨閲覧システムは、11月中旬に公開予定です。

※オンラインプログラム検索・要旨閲覧システムはフィーチャーフォン（ガラケー）には対応しておりません。ご了承ください。

※ホームページでご案内しておりますが、1つのアカウントで同時に接続できる端末台数は2台までとなりますので、ご注意ください。

○年会ホームページの「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」にアクセスしてください。

「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」へのアクセスはこちらから

年会ホームページ <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>

※2020年11月中旬に公開予定。

○事前参加登録者には、オンライン要旨閲覧システムにログインするためのID/パスワードを、年会事務局よりメールにてお送りいたします。

○直前-当日参加登録を行った方には、決済完了のメール中にログインID/パスワードが記載されます。

【Late-breaking Abstracts について】

本年会では最新の研究成果をもとに議論を深めたいと考えておりますので、Late-breaking Abstracts ポスター発表を行います。

【サテライトシンポジウム】

日 時：2020年12月5日(土) 14:30～21:00

主 催：Women in Science Japan (WiSJ)

(※第43回年会とは異なる日程で開催されます。詳細は年会ホームページをご確認ください。)

研究発表に関する指針

本学会の重要な目的の一つは、未発表も含めた最新の研究成果を共有し活発な議論と情報交換を行うことである。この目的を達成するため、研究発表に関する以下の指針を定める。

1. 参加者間相互の信頼関係を著しく損なう、以下のような行為は禁止とする。
口頭発表会場とポスター会場で発表された生データを、発表者の承諾なしに写真撮影・ビデオ撮影・録音すること。
研究内容について、発表者の承諾なしにSNS等で第三者に公開すること。
2. 発表に際しては、研究の核心となる分子名、方法、理論、アイディアなどを伏せて発表することは、できるかぎり避ける。
3. 特許申請などに関わる情報の取り扱い、発表者の自己責任とする。

2018年9月14日 制定
特定非営利活動法人 日本分子生物学会 第20期理事会

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月2日 (水)	シンポジウム ワークショップ 9:00-11:30				バ イテ セミナー 12:00-13:00 学会企画 11:45-13:00		シンポジウム ワークショップ 15:30-18:00			フォーラム 18:30-20:00				
					ポスター 発表・討論 13:15-15:15									
	オンライン展示会 0:00-24:00													
12月3日 (木)	シンポジウム ワークショップ 9:00-11:30				バ イテ セミナー 12:00-13:00 学会企画 11:45-13:00		シンポジウム ワークショップ 15:30-18:00			フォーラム 18:30-20:00 通常総会 富澤基金贈呈式 18:30-20:00				
					ポスター 発表・討論 13:15-15:15									
	オンライン展示会 0:00-24:00													
12月4日 (金)	シンポジウム ワークショップ 9:00-11:30				バ イテ セミナー 12:00-13:00 ショーケース (シーズプレゼンテーション) 12:00-15:30		シンポジウム ワークショップ 15:30-18:00			フォーラム 18:30-20:00				
					ポスター 発表・討論 13:15-15:15					高校生発表 18:15 - 20:00				
	オンライン展示会 0:00-24:00													

理事長メッセージ「明日のために、その3」

会員の皆様へ

ついに分子生物学会もオンラインとなってしまったか、と会員の寂しげなため息が聞こえてきそうな感じです。分子生物学会は年会にオンサイトで参加することで、自分の研究を発表して直接の議論ができること、未発表の up-to-date な情報を得られること、昔の仲間の研究の進捗状況も聞けるなど、いろいろな楽しみ方があることで多くの会員の支持を得てきたものと思います。第43回年会組織委員会、年会事務局、そして学会事務局の皆さんも何とかオンサイトで開催できないかと模索 (struggle) したものの、神戸市中央病院の患者さんや医療関係者が多数乗車するポートライナーのラッシュを鑑みると、完全オンライン開催へと舵を切らざるを得ない状況へと追い込まれていきました。といって、8,000人近い参加者のある学会で何千もの演題をオンラインでやるとなると、簡単でないことは想像に難くありません。多くの会員の皆様は、今年の年会はどうなるのだろう、とヤキモキされたと思いますが、Late-breaking Abstract (LBA) も受付開始されましたので、ホットなデータを抱えて参加くださればと思います。

もちろん、ハイブリット方式についても議論されましたが、今回は感染拡大の防止を最優先させるために完全オンラインとなりました。そして、オンライン開催の新たな経験を経た後に、会員の皆様に意見を出してもらい、今後の年会の在り方について考えようとなりました。よって、**オンライン年会への積極的な参加を要請する次第です。そしてオンライン年会に参加してから、会員の皆様の年会への思いをぶつけてもらえればと思います**（年会が終わり次第、意見聴取とアンケートの回収を行います）。個人的には、『分子生物学会は年会に参加してナンボだろ』と思っているので、『分子生物学会の年会は現場での熱い議論を原則とする』みたいなメッセージを発する形で年会を開催できるようになればと思っています。しかし一方で、感染の危険性が残っている限りは、オンライン参加を可能にすることは必須と思われます。また、オンラインにはオンラインのメリットがあるのも事実と思います。**会員の皆様からの意見は今後の学会運営を考える上でとても重要になります。会員からの率直な意見をお待ちします。**

最後にどうしても言っておかなくてはならないことがあります。オンライン開催をした場合の問題点として、情報の漏洩が指摘されています。オンラインでは機密性の保持が難しいので、どうしても未発表のホットなデータは出さないようになり、分子生物学会がもっていた未発表データをもとに熱く議論するカルチャーが失われることが懸念されています。そういった意味において、**会員の皆様には、オンライン開催となるとますます機密保持の姿勢や意識を先鋭化してもらう必要があることを訴えて結びの言葉とさせていただきます。**

2020年10月
特定非営利活動法人 日本分子生物学会 第21期理事長
(基礎生物学研究所)
阿形 清和

第 44 回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その 1）

会 期：2021 年 12 月 1 日(水)～3 日(金) (3 日間)
会 場：パシフィコ横浜
年 会 長：塩見 美喜子（東京大学大学院 理学系研究科）
演 題 登 録 期 間：2021 年 7 月 1 日(木)～7 月 30 日(金)※予定
事前参加登録期間：2021 年 7 月 1 日(木)～10 月 6 日(木)※予定
年会事務局連絡先：第 44 回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画 内）
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2021@aeplan.co.jp
年会ホームページ：https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2021/

【年会長の挨拶 その 1】

第 44 回日本分子生物学会（MBSJ）年会は、3 年ぶり、パシフィコ横浜での開催です。パシフィコ横浜は MBSJ 年会の主会場の一つであり、老若男女を問わず多くの MBSJ 会員にとって何気に、“人知れず心待ちにする久方ぶりの帰省”のような感じなのではないかと察します。最初の横浜年会は 22 年前、1998 年に開催されました（第 21 回年会：吉田光昭年会長）。キャッチフレーズは「時代を先取りした“みなと”横浜での年会」。成長期真っ只中の MBSJ に新しい息吹をもたらそうという気鋭、未来を見つめるポジティブな視点が感じられます。その後は、神戸や福岡を挟みつつ数年おきに開催され、2021 年の本年会はちょうど 10 回目の横浜年会に相当します。これは学会として一つの大きな節目であり、特別な年会といえるでしょう。さて、ここで会員の皆様へ重大アナウンスがあります。実は、第 44 回年会は MBSJ の「最後の横浜年会」となります（正確には余程の裏技を使わない限りという限定付き。“余程の裏技”の正体は知る人ぞ知るといったところでしょうか）。つまり、本年会は、特別な年会であることに変わりはありませんが、その意味合いは変貌を遂げることとなりました。このような特殊事情のもと、年会の準備そして実施を仰せつかった組織委員の士気高揚は半端ありません。来年 12 月であっても新型コロナ禍の影響は排除しきれないだろうという見解から、切望する完全オンサイト形式は諦めざるを得ない状況にあります。「窮即変、変即通」。幸いにも、オンサイトを基軸としたオンライン・プラス形式での開催は、他学会の成功例もちらほら聞こえてくる環境下で、ほぼ見通せる状態になってきています。“未発表データをもとに熱く議論する”という基本理念を守りつつ「MBSJ FES 2021 in Yokohama」と密かに銘打ち、これまで以上に活気に満ちた、実りのある commemorative な年会になることを願っています。皆様の積極的な御参加、並びに厚い御支援をよろしくお願い申し上げます。

第 44 回日本分子生物学会年会
年会長 塩見 美喜子
（東京大学大学院 理学系研究科）

Organizer's remarks on the 44th Annual Meeting of MBSJ, in Yokohama

The 44th Annual Meeting of MBSJ will be held next year at the PACIFICO Yokohama, in the lively and attractive Minato Mirai area of Yokohama, Japan. Needless to say, especially to the MBSJ members, this has been one of the most frequently used venues for the annual meetings. The first such meeting at the PACIFICO Yokohama was in 1998. That was the 21st Annual Meeting, organized by Professor Mitsuaki Yoshida. Since then, the MBSJ has returned to the venue every 3 or 4 years. The 2021 Annual Meeting will in fact be the 10th one to be held there! This is a special anniversary and it marks a turning point in MBSJ activities, deserving of a special event for celebration. At the same time, I also have to mention that the 44th Annual Meeting of MBSJ will be the last one to be held in Yokohama (unless something miraculous happens in the future). This undoubtedly makes this meeting truly special, yet with a somewhat different sort of meaning. We recently found that we would be forced to adopt an online-plus-onsite formula, rather than a 100%-onsite formula, against our

desperate wishes. This is truly unfortunate, but it cannot be avoided given the circumstances of the prolonged COVID-19 pandemic. Amid this situation, the organizing committee has been striving to make this meeting a very special one so as to commemorate it. These efforts are based on people's expectations that the meeting provides the atmospheres and environments for encouraging intensive discussions on both published and unpublished data, which is the fundamental principle of the MBSJ. We look forward to meeting all of you at the MBSJ FES 2021 in Yokohama.

President of MBSJ2021
Mikiko C. Siomi
(Department of Biological Sciences,
Graduate School of Science,
The University of Tokyo)

【年 会 組 織】

組織委員会

年 会 長：塩見美喜子（東京大学）
組 織 委 員 長：小林 武彦（東京大学）
プログラム委員長：胡桃坂仁志（東京大学）
組 織 委 員：東山 哲也（東京大学 / 名古屋大学）
岩崎 由香（慶應義塾大学）

プログラム委員会

プログラム委員長：胡桃坂仁志（東京大学）
プログラム委員：

青木 一洋（基礎生物学研究所）	齊藤 博英（京都大学）
赤沼 哲史（早稲田大学）	佐藤 俊朗（慶應義塾大学）
石谷 太（大阪大学）	佐藤美由紀（群馬大学）
伊藤 拓宏（理化学研究所）	清水 厚志（岩手医科大学）
伊藤 俊樹（神戸大学）	志村 まり（国立国際医療研究センター）
井上 梓（理化学研究所）	杉本 慶子（理化学研究所）
岩崎信太郎（理化学研究所）	鈴木 匡（理化学研究所）
岩崎 秀雄（早稲田大学）	高橋 暁子（がん研究会）
岩崎 渉（東京大学）	高橋 達郎（九州大学）
大川 恭行（九州大学）	竹内 理（京都大学）
大谷美沙都（東京大学）	田代 聡（広島大学）
奥山 輝大（東京大学）	田中 耕三（東北大学）
岸 雄介（東京大学）	西増 弘志（東京大学）
金 倫基（慶應義塾大学）	西山 朋子（名古屋大学）
木村 暁（国立遺伝学研究所）	久本 直毅（名古屋大学）
糸 昭苑（東京工業大学）	菱田 卓（学習院大学）
倉永英里奈（東北大学）	廣瀬 哲郎（大阪大学）
黒田 真也（東京大学）	広田 亨（がん研究会）
見學美根子（京都大学）	山縣 一夫（近畿大学）
齋藤 成昭（久留米大学）	山口 雄輝（東京工業大学）
齊藤 典子（がん研究会）	

【プログラム概要】

◆指定シンポジウム（全6テーマ）

以下の6つのテーマで指定シンポジウム企画の開催を予定しております。

テーマ1：時計・睡眠

睡眠・冬眠研究の最前線

Frontiers in Sleep and Hibernation Research

オーガナイザー：柳沢 正史（筑波大学）

睡眠や冬眠・休眠は、動物が能動的に制御された形で活動性を低下させる興味深い行動である。この分野では「なぜ神経系を持つ全ての動物種に睡眠が必要なのか」「なぜ長く覚醒していると眠気が蓄積するのか」「冬眠・休眠はどのように制御されているのか」「冬眠をしない動物種を冬眠様の状態に導くことは可能か」「睡眠と冬眠はどのように相互作用するのか」といった根源的な疑問が現在も謎として残されている。このシンポジウムでは、このような魅惑的な謎への最先端の取組みを紹介する。

テーマ2：発生・生殖

合成発生学：発生研究のボトムアップアプローチ

Synthetic Embryology - Bottom-up approaches to study human & animal development

オーガナイザー：斎藤 通紀（京都大学）、Cantas Alev（京都大学）

合成発生学は、多能性幹細胞や先進的な工学技術を用いて、発生過程を試験管内再構成し、基盤となるメカニズムを構成論的に理解することを目指す研究領域である。合成生物学は、着床前後胚の試験管内再構成や器官・組織形成を包含する幅広い研究領域を対象とし、これまで研究が困難であったヒトや様々な哺乳類の発生機構の解明を可能としつつある。本シンポジウムでは、本領域の第一線で活躍する国内外の研究者を招聘し、合成発生学の最前線と今後の展望を議論したい。

テーマ3：生物情報・技術・システム

Technology, genomics, computational biology approach towards ncRNA functions

オーガナイザー：Piero Carninci（RIKEN Center for Integrative Medical Sciences）

Non-coding RNAs (ncRNAs) play essential role in biological phenomena by folding into complex structures and functioning by interacting with other RNAs, DNA and proteins. However, their functional mechanisms are not broadly studied. In this session, we will discuss the functional mechanisms of ncRNAs with new technologies that allow us to analyze their modification, structures, spatial positioning and interactions.

テーマ4：老化

生命の連続性と老化

Continuity of the Life and Aging

オーガナイザー：小林 武彦（東京大学）、高橋 暁子（がん研究所）

生き物の生涯は、発生、継承、老化の3つステージで記述される。発生は体の構築、継承は生命の連続性を支える繁殖の時期、そして老化はそれを減衰させ終了へと導く。本シンポジウムでは継承から老化への遷移メカニズムを、幹細胞の維持と老化の分子機構の最新の研究から考える。

テーマ5：多様性

生物多様性による生物学の展開

Biodiversity for Exciting Discoveries

オーガナイザー：東山 哲也（東京大学 / 名古屋大学）

地球上には多種多様な生物種が存在する。その一方で、分子生物学を進める上では限られた種類のモデル生物に頼らざるを得ない。しかし近年のオーム解析やゲノム編集などに関する技術開発は、その壁を壊しつつある。生物多様性そのものから新たな仕組みを発見したり、ユニークな非モデル生物を活用したり、研究者の自由度は大きく増している。本シンポジウムでは、生物多様性を活かした研究を進める演者達の、ユニークな研究を楽しみたい。

テーマ6：クロマチン・エピジェネティクス

RNAによる核内構造体とクロマチンの制御

RNA in Nuclear Architecture and Chromatin Organization

オーガナイザー：胡桃坂仁志（東京大学）、岩崎 由香（慶應義塾大学）

近年の研究結果から、LLPS（液-液相分離）やゲノムの空間的配置によって形成される核内高次構造体が、DNA複製や修復に加えて、遺伝子転写・発現にも重要な役割を果たすことが明らかになりつつある。そして、そうした構造体の形成や機能に、タンパク質やクロマチンに加えて、RNAが重要な役割を果たすケースも多数報告されている。本シンポジウムでは、最新の知見をもとに核内高次構造体と遺伝子転写・発現のリンクをひもといて行きたい。

◆公募シンポジウム（最大18テーマ）、公募ワークショップ（最大101テーマ）

会員より企画を公募します。後述の募集要項をご参照の上、奮ってご応募ください。

◆一般演題（ワークショップ・ポスター）

公募ワークショップでは一般演題から複数演題を採択いただきます。また、ポスターセッションにはディスカッサー制を導入します。演題投稿期間は7月1日(木)から7月30日(金)となります（予定）。詳細は2月発行の次回会報、および年会ホームページにてご案内いたします。多数の演題投稿をお待ちしております。

◆高校生発表

年会最終日の午後に高校生による口頭・ポスター発表を予定しています。

◆市民公開講座

年会最終日の夕方に市民公開講座の開催を予定しています。

演者：小林 武彦（東京大学）

胡桃坂仁志（東京大学）

◆横浜ヒストリア企画

過去の横浜年会の年会長にインタビューした内容をまとめた小冊子の無料配布を予定しています。また、過去に横浜で開催した年会のポスターや要旨集の展示コーナーを設置予定です。

◆バイオテクノロジーセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

その他の企画は詳細が決まり次第、年会ホームページにてご案内いたします。

【公募シンポジウム・ワークショップの企画公募について（1月29日(金)受付締切予定）】

本年会では、公募シンポジウムおよびワークショップの企画を会員の皆さまより公募いたします。ご提出いただいた企画案は、プログラム委員会において厳正なる審査を行い、採否を決定します。採否結果は2月下旬に応募者へご連絡いたします。下記要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

◆募集要項

公募シンポジウム

- 講演言語は英語とし、1テーマあたり午前中の135分の時間枠で最大18テーマを採択予定です。
- 発表スライドの作成言語は英語となりますが、専門用語などについてはスライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。
- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会の会員であることが必須です。
- 公募シンポジウムの演題は、オーガナイザーにて選定・依頼された指定演者によるもののみとします。
- 女性や若手研究者がオーガナイザーや指定演者に入っている企画を優先して採択します。
- 海外演者の招聘を推奨します。招聘がオンサイトでなされた場合、年会から旅費（1企画につき海外演者1名では20万円、2名以上では40万円）・宿泊（年会指定のホテルでの最大4泊分）を支給します（国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません）。
- 海外、国内を問わず、非会員指定演者の参加費は免除とさせていただきます。
- 新学術領域等の「冠」企画の実施も可能とします。ただし、班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。ホームページやプログラム集への冠表記には、10万円の協賛金の負担をお願いいたします。冠表記を希望する方は、応募サイトの該当欄へ掲載を希望する団体名を記載し、併せて「公募シンポジウム・ワークショップ冠企画申込書」を年会事務局にメール添付で提出してください。
- 公募シンポジウムで不採択となった企画は、ワークショップとして採択される可能性があります。
- 企画採択されたオーガナイザーには、該当分野のポスター演題の編成やポスターディスカッサーのご担当、ご推薦を併せてお願いする場合があります。

ワークショップ

- 講演言語はオーガナイザーに一任とし、1テーマあたり、135分の時間枠で最大61テーマ、90分の時間枠で最大40テーマを採択予定です。
- 英語で開催されるワークショップは優先的に135分枠で開催いただきます。
- いずれの枠で採択となった場合でも、演題の1/3程度を一般演題から採択いただきます。
- 発表スライドは講演言語にかかわらず、全演者に英語での作成をお願いします。専門用語などについてはスライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。
- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会の会員であることが必須です。
- 女性や若手研究者がオーガナイザーや指定演者に入っている企画を優先して採択します。
- 海外演者をオンサイトで招聘する場合には、年会から旅費（人数に関わらず1企画につき15万円）・宿泊（年会指定のホテルでの最大4泊分）を支給します（国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません）。
- 海外、国内を問わず、非会員指定演者の参加費は免除とさせていただきます。
- 新学術領域等の「冠」企画の実施も可能とします。ただし、班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。ホームページやプログラム集への冠表記には、10万円の協賛金の負担をお願いいたします。冠表記を希望する方は、応募サイトの該当欄へ掲載を希望する団体名を記載し、併せて「公募シンポジウム・ワークショップ冠企画申込書」を年会事務局にメール添付で提出してください。
- 企画採択されたオーガナイザーには、該当分野のポスター演題の編成やポスターディスカッサーのご担当、ご推薦を併せてお願いする場合があります。

◆応募要領

年会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、1月29日（金）（予定）までに下記の必要情報をご登録ください。

- 1) 公募シンポジウム、ワークショップのいずれに応募するかを選択
- 2) 135分枠、90分枠のいずれを希望するかを選択 ※ワークショップに応募する場合のみ
- 3) 開催言語（日本語・英語・演者が選択） ※ワークショップに応募する場合のみ
- 4) タイトル（和文・英文）
- 5) オーガナイザーの氏名・所属（和文・英文）・性別・年代・職位
- 6) 概要（和文・英文／和文全角200文字程度・英文半角400文字程度）
- 7) 予定演者の氏名・所属・性別・年代・職位（応募時点での演者による講演承諾は不要です）
- 8) 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先
- 9) 2つまでの大項目・小項目の組合せ（以下の表参照）、3つのキーワード
- 10) 予想される聴衆数
- 11) 冠の有無、団体名

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

【一般演題 発表分類一覧】

大項目		小項目
1	分子	a ゲノム・遺伝子・核酸
		b DNA複製
		c 組換え・変異・修復
		d エピジェネティクス・クロマチン
		e 転写
		f RNA・RNP
		g 翻訳
		h タンパク質
		i 糖・脂質・代謝産物
		j 分子進化
		k その他
2	細胞	a 染色体・核構造体
		b 相分離
		c タンパク質プロセッシング・輸送・局在化
		d 細胞質膜オルガネラ
		e 細胞接着・細胞運動・細胞外基質
		f 生体膜・細胞骨格
		g 細胞増殖・分裂・周期
		h シグナル伝達（翻訳後修飾）
		i シグナル伝達（生理活性物質）
		j 細胞死
		k その他
3	発生・再生	a 器官・形態形成・再生
		b 幹細胞
		c 細胞分化
		d 初期発生
		e 生殖
		f その他
4	高次生命現象・疾患	a 共生微生物
		b 生物リズム
		c 脳・神経系・神経発生・構造
		d 脳・神経系・行動
		e 脳・神経系・疾患
		f 免疫
		g 感染・ウイルス
		h 老化
		i がん細胞
		j がん組織・がん治療
		k 代謝・栄養
		l 遺伝性疾患
		m 植物
		n その他
5	情報・システム・技術	a 核酸工学・ゲノム編集
		b タンパク質工学・合成生物学
		c 細胞工学・発生工学・オルガノイド
		d ケミカルバイオロジー
		e バイオインフォマティクス
		f オミクス
		g イメージング
		h 病因解析・診断
		i その他

◆お問合せ先

第44回日本分子生物学会年会事務局（㈱エー・イー企画 内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2021@aeplan.co.jp

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月1日 (水)		シンポジウム ワークショップ 9:00-11:15			バイク セミナー 11:40-12:30 キャリアパス 委員会企画 11:30-12:45				ワークショップ 15:45-18:00 ワーク ショップ 15:45-17:15	ワーク ショップ 17:30-19:00		フォーラム 19:15-20:45		
	貼付				展示 会見学	ポスター 発表・討論 13:00-15:30						撤去		
						機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00								
12月2日 (木)		シンポジウム ワークショップ 9:00-11:15			バイク セミナー 11:40-12:30 キャリアパス 委員会企画 11:30-12:45				ワークショップ 15:45-18:00 ワーク ショップ 15:45-17:15	ワーク ショップ 17:30-19:00		フォーラム 19:15-20:45		
	貼付				展示 会見学	ポスター 発表・討論 13:00-15:30						撤去		
						機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00								
12月3日 (金)		シンポジウム ワークショップ 9:00-11:15			バイク セミナー 11:40-12:30				ワークショップ 15:45-18:00			市民公開講座 18:45-20:15		
	貼付				展示 会見学	ポスター 発表・討論 高校生研究発表 13:00-15:30			撤去					
						機器・試薬・書籍展示 10:00-15:30						撤去		

※あくまで2020年11月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2020

『あなたのその研究テーマ、続けますか？ 変えますか？』

日 時：12月2日(水) 11:45～13:00 (75分)

チャンネル：Ch 01

司 会：林 克彦（九州大学大学院医学研究院）

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員
倉永英里奈（東北大）、鈴木 淳史（九大）、花嶋かりな（早稲田大）、山本 卓（広島大）、胡桃坂仁志（委員長／東大）

研究者とは単純なもので、自身の研究がうまく進んでいけば、おおかたハッピーで、細かい悩みなどは忘れてしまいます。その一方で、研究がうまく進まない場合は、暗たんとした気分になり、細かい悩みなどにもストレスを感じることでしょう。今回のキャリアパス企画では、研究者のQOLを大きく左右する研究テーマについて取り上げたいと思います。学生、ポスドク、PIなど異なる立場の研究者から、研究テーマの決定過程、変更、修正などについて議論し、最終的には各自が現在のテーマの遂行や展開のためのヒントを得られるような企画にしたいと思います。

（企画では事前アンケートで研究テーマについてそれぞれの立場から提供いただいた情報をもとに、研究テーマに関する悩みや効率良く進めるためのコミュニケーション術などについて、皆様と議論したいと思います。）

『海外へ GO!?!』

共催：国立研究開発法人日本医療研究開発機構

日 時：12月3日(木) 11:45～13:00 (75分)

チャンネル：Ch 01

司 会：來生（道下）江利子
（第一三共株式会社 研究開発本部）

●講演
塩崎 一裕（奈良先端科学技術大学院大学）
「英検4級と HFSP フェローシップで始める海外キャリア入門」

塩見美喜子（東京大学大学院理学系研究科／EMBO member）

Iris Wieczorek（株式会社 IRIS 科学・技術経営研究所／EMBO consultant in Japan）

「EMBO と日本とのコラボレーション」

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員
石谷 太（阪大）、加納 純子（東大）、木村 宏（東工大）、斉藤 典子（がん研）、胡桃坂仁志（委員長／東大）

日本の国際競争力低下の一因として、海外へ行く研究者の減少があげられています。その理由として日本の若者は「内向き志向」という声がよく聞かれますが本当にそうでしょうか？やれ「グローバル化」だの「海外留学」だというけれど、メリットよりもデメリットの方が大きいのでは？そもそも研究をするのに海外へ行く必要はあるの？なんて声も聞こえてきそうです。あるいは海外留学には興味はあるけれど、情報も少なく、何となくあきらめている人はいませんか？今回は、塩崎先生と Wieczorek 先生を講師にお招きして、HFSP や EMBO などのフェローシップ獲得の体験談や情報共有と共に、若手、シニアの皆さまと一緒に、海外へ行くことについてざっくばらんに本音で語りあいたいと思います。

※今年のキャリアパス委員会企画は、ランチタイムに Zoom Webinar で開催いたします。サンドイッチやおにぎりを片手に参加できるフランクなセミナーを企画しますので、多くの皆さまにご参加をいただけますようお願いいたします。詳細は年会 HP よりご確認ください。

キャリアパス委員会報告

1. 第 43 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2020 Online) に関連して

演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題登録ページに属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。現在、結果の集計を進めております。分析結果は学会 HP でご報告いたします。

2. アンケートの実施

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー 2020『あなたのその研究テーマ、続けますか？ 変えますか？』事前アンケート

2020 年 9 月 17 日～10 月 5 日の期間、キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー 2020『あなたのその研究テーマ、続けますか？ 変えますか？』事前アンケートを実施し、548 名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。この調査結果をふまえ、年会企画の準備を進めております。調査結果はランチタイムセミナーでご報告し、学会 HP にも掲載する予定です。

キャリアパス委員会 委員長 胡桃坂仁志

会員専用ページの利用について

個人会員（正会員・学生会員・次世代教育会員・シニア会員）各位には、学会ホームページ上に設けている「会員専用ページ」をご利用いただけます。アクセスするにはログイン ID（数字 6 桁の会員番号）とパスワードが必要です。会員番号は年度会費請求書または会報宛名台紙に印字されています。パスワードがご不明の場合は、ログイン画面よりオンラインで再設定が可能です。再設定には「会員番号」と「会員専用ページに登録されているメールアドレス」が必要となります。会員番号がご不明の際には学会事務局までお問い合わせください。

※個人情報の保護を考慮し、現在登録されているパスワードをお答えすることはできませんので、ご了承ください。

会員専用ページの機能

登録情報確認・変更	学会に登録されている本人情報（会員種別・所属・入会年月日 等）を確認・変更できます。
公開情報設定	会員検索で公開する本人情報の項目を設定できます。 (名前・会員番号・会員種別は、非公開の設定ができません)
会費納入状況の確認とクレジット決済	会費納入状況を確認できます。また、未納会費のクレジット決済が可能です。 (手数料は一切かかりません) クレジット決済した会費の領収証を印刷できます。※ 1
パスワード変更	会員専用ページにアクセスするためのパスワードを変更できます。
会員検索・閲覧	以前の会員名簿に代わるものとして、本学会に所属している会員の検索ができます。 (会員が「非公開」設定にしている項目は、検索・閲覧できません)
年会アーカイブ	第 38 回～第 42 回 (2015～2019 年) 年会の要旨検索・閲覧ができます。

※ 1) 学会よりお送りする年度会費請求書（払込取扱票）によるお支払いは、オンライン領収証発行の対象ではありません。お支払いの際に発行される受領証が正式な領収証となりますので、大切に保管してください。

※ 2) ご連絡先の変更などは従前通り変更届によるご連絡も受け付けております。書式は学会ホームページよりダウンロードできます。

高校などへの講師派遣について

本学会では、生物学分野の講義や実習を希望される高校などへ講師を派遣する事業を行っています。ご協力いただける会員有志を講師候補者の人材データベースに登録させていただき、高校からの要望に応じて学会事務局でマッチングするというものです。全国どこでも“無料”で実施しており、交通費は原則会員のご負担になりますので、お申し出のあった会員のうち勤務地やお住まいが近い方をマッチングするなどの工夫をしています。

依頼は全国の高校などから寄せられており、分野やテーマを指定したものや、生物学の面白さを伝えることに主眼をおいた講義・実習などさまざまです。

2020年2月以降はCOVID-19の影響で講師派遣依頼を当面保留としている学校が多い状況ですが、この間も人材データベースへのご登録は随時受け付けていますので、ご協力をお願いいたします。

〔高校などへの講師派遣 人材データベースへのご登録方法〕

学会事務局 (education@mbsj.jp) 宛に下記の情報をメールでお送り下さい (件名: “講師派遣事業への登録”)。

- ①基本情報: 氏名、所属機関、連絡先 (住所、電話、メールアドレス)
- ②専門分野: マッチングの際に使用 (例: 発生生物学、免疫学、RNA、エピジェネティクス、ゲノム編集)
- ③講義/講演可能な内容の希望: 具体的なタイトルなど (これまで講師の経験がある場合は記載をお願いします)
- ④高校での出前講義、講演などの経験の有無: ある場合はおおよその回数 (あくまで参考情報です)
- ⑤派遣可能地域: 交通費のことがありますので、希望・可能地域などがあれば記載ください (例: 関東地区)

〔講師派遣実績 (会員氏名 50 音順、所属機関は現在の所属、カッコ内の数字はこれまでの派遣回数)〕

荒木 正健 (熊本大学生命資源研究・支援センター) (2)	鈴木 崇之 (東京工業大学大学院生命理工学研究科) (1)
石黒啓一郎 (熊本大学発生医学研究所) (2)	須藤 裕子 (東レ株式会社先端融合研究所) (1)
稲田 利文 (東北大学大学院薬学研究科) (1)	高田 幸 (熊本大学発生医学研究所) (1)
上原 啓史 (長浜バイオ大学高大連携事業推進室) (1)	竹内 隆 (鳥取大学医学部) (1)
海老原 充 (関東学院大学理工学部) (2)	田邊思帆里 (国立医薬品食品衛生研究所) (3)
大川 恭行 (九州大学生体防御医学研究所) (1)	谷内 一郎 (理化学研究所統合生命医科学研究センター) (3)
大久保 直 (北里大学医学部) (1)	續 輝久 (福岡歯科大学先端科学研究センター) (1)
大原 裕也 (静岡県立大学食品栄養科学部) (1)	中川 誠人 (京都大学 iPS 細胞研究所) (1)
荻田 修一 (三重大学大学院生物資源学研究科) (1)	中西 徹 (就実大学薬学部) (1)
菅野 雅元 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院) (3)	中村 輝 (熊本大学発生医学研究所) (1)
木賀 大介 (早稲田大学先進理工学部) (1)	中村 哲也 (順天堂大学大学院医学研究科) (1)
北川 孝雄 (北海道医療大学先端研究推進センター) (2)	名川 文清 (東京大学大学院理学系研究科) (1)
胡桃坂仁志 (東京大学定量生命科学研究科) (1)	原 孝彦 (東京都医学総合研究所) (6)
黒柳 秀人 (東京医科歯科大学難治疾患研究所) (1)	広田 亨 (がん研究会がん研究所) (1)
小嶋 徹也 (東京大学大学院新領域創成科学研究科) (1)	藤原 滋樹 (高知大学理学部) (1)
駒野 淳 (国立病院機構名古屋医療センター) (2)	古野 伸明 (広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設) (1)
権藤 洋一 (東海大学医学部) (8)	本間 貴之 (京都大学物質-細胞統合システム拠点) (3)
坂本 泰一 (千葉工業大学工学部) (1)	正井 久雄 (東京都医学総合研究所) (1)
佐野 和美 (帝京大学理工学部) (1)	松崎ゆり子 (慶應義塾大学医学部) (2)
佐野 健一 (日本工業大学創造システム工学科) (1)	松田 達志 (関西医科大学附属生命医学研究所) (2)
四方 雅仁 (農業・食品産業技術総合研究機構) (1)	宮田 信吾 (近畿大学東洋医学研究所) (2)
篠原 彰 (大阪大学蛋白質研究所) (11)	村井 耕二 (福井県立大学生物資源学部) (1)
柴田 武彦 (首都大学東京大学院理工学研究科) (2)	村田 成範 (武庫川女子大学薬学部) (1)
下池 貴志 (国立感染症研究所) (2)	築瀬 澄乃 (大東文化大学スポーツ・健康科学部) (1)
末次 志郎 (東京大学分子細胞生物学研究所) (1)	

第22期理事選挙結果のご報告

2020年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第22期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第22期理事の任期は2021年1月から2022年12月までの2年間です)

- 選挙公示日 2020年6月10日(水) (会報126号発送)
- 投票期間 2020年6月22日(月)10:00～7月10日(金)17:00
- 開票日 2020年7月14日(火)
- 開票場所 日本分子生物学会事務局
- 開票立会人 第22期理事選挙・選挙管理委員会
(菱田卓委員長、斉藤典子委員、丹羽隆介委員)
※菱田委員長は学会事務所にて、斉藤委員、丹羽委員はWeb会議システムにて立会い。
- 有権者数 11,612名
- 投票者数 1,149名
- 投票総数 11,490票 (うち白票3,695票)

○当選者 (50音順)

一條 秀憲 (東大・薬)	杉本亜砂子 (東北大・生命)
上村 匡 (京大・生命)	田中 啓二 (都医学研)
糸 昭苑 (東工大・生命理工)	泊 幸秀 (東大・定量研)
倉永英里奈 (東北大・生命)	中川 真一 (北大・薬)
見學美根子 (京大・iCeMS)	中山 潤一 (基生研)
小林 武彦 (東大・定量研)	仁科 博史 (医科歯科大・難治研)
小安 重夫 (理研・IMS)	丹羽 隆介 (筑波大・TARAセンター)
近藤 滋 (阪大・生命)	原 英二 (阪大・微研)
斉藤 典子 (がん研)	東山 哲也 (東大・理)
斎藤 通紀 (京大・医)	深川 竜郎 (阪大・生命)
佐々木裕之 (九大・生医研)	水島 昇 (東大・医)
佐谷 秀行 (慶應大・医)	本橋ほづみ (東北大・加齢研)
塩見 春彦 (慶應大・医)	吉田 稔 (理研・和光)
塩見美喜子 (東大・理)	吉村 昭彦 (慶應大・医)
白髭 克彦 (東大・定量研)	吉森 保 (阪大・医)

以上30名

- 本選挙において、当選者の中から1名の理事就任辞退者が出ました。「理事選挙に関する選挙管理委員会内規」に基づき、選挙管理委員長と現理事長で協議を行い、その結果、次点者を繰上げ当選としました。ご報告します。

◆特定非営利活動法人 日本分子生物学会 第21期第3回（臨時）理事会記録

日 時：2020年8月7日（金） 17：00～19：20

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：阿形清和（理事長）、佐々木裕之（副理事長）、塩見美喜子（副理事長／第44回年会長）、荒木弘之、五十嵐和彦、石川冬木、稲田利文（庶務幹事兼）、上田泰己、上村 匡（編集幹事兼／第43回年会長）、大隅典子、菊池 章、木村宏（庶務幹事兼）、倉永英里奈、後藤由季子、小原雄治、近藤 滋、斎藤通紀、佐谷秀行、中島欽一、中山敬一、西田栄介、原 英二、正井久雄、三浦正幸（会計幹事兼）、本橋ほづみ、山本 卓、吉森 保、小安重夫（監事）、町田泰則（監事）、深川竜郎（広報幹事／第45回年会長）、林 茂生（国際化担当幹事／第46回年会長）、以上31名

欠席者：一條秀憲、胡桃坂仁志、鍋島陽一、以上3名

事務局：福田 博、金子香奈里、並木孝憲、山口恵子（記録）

本理事会成立について：

木村宏庶務幹事より、理事27名、監事2名、幹事2名が出席し、本理事会は細則第4章第8条により成立する旨報告された。

議事録署名人の選任について：

阿形清和理事長より、議事録署名人として、稲田利文理事と木村宏理事が指名され、承認された。

議 事：

1. COVID-19 学会対応

阿形理事長より、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への学会対応について、執行部での検討結果が報告された。執行部ではメール会議を随時行い、5月15日、20日にはオンライン執行部会議を実施するなどして、情報収集と検討を重ねた。

①PCR検査関連の協力については、引き続き状況を注視することとした。

②生物科学学会連合（生科連）と連携して情報発信を行った。

- ・加盟32学協会による声明「緊急事態措置による影響緩和のための各関係機関へのお願い」：学生の授業料の減免および生活支援の拡充、研究期間の延長および研究計画変更に対する柔軟な対応（任期付き研究者の雇用についても任期を延長）、学生に対する学位、卒業認定要件への柔軟な対応などを求めた。
- ・加盟学協会提供の中高生向け教育コンテンツ特集

への協力：本学会のホームページで公開されている過去の年会の特別企画や市民公開講座などの動画リンク集を生科連へ提出した。

③ Genes To Cells 誌

学会誌 Genes To Cells は以前から著者の事情にできるだけ配慮するポリシーで運営されているが、「COVID-19による研究活動制限の事情についても、より一層配慮する」旨を運営ポリシーに明言し、学会HP等で広報した。

2. 第43回（2020年）年会の開催形式、準備状況について

上村匡第43回年会長より2020年の年会準備状況につき報告がなされた。

第43回年会は2020年12月2日（水）～4日（金）神戸ポートアイランドでの開催を予定して準備を進めてきたが、組織委員会における検討の結果、完全オンライン開催とすることを決定した。「やむをえず」のオンライン開催選択ではなく、オンラインならではの強みを生かした新しい形の年會に挑戦したい。オンライン開催に際し、6月下旬に急遽4社による運営会社ヒアリング・選考会議を行ったが、結果としてブラッシュアップされた内容の提示があったエー・イー企画に引き続き委託することが決定した。

オンライン開催の骨子は以下の通りである。

- ・会期に変更はないが、全シンポジウム・ワークショップをウェビナー形式でライブ配信し、録画配信許可された講演については会期終了後1週間オンデマンド配信を予定している。
- ・一般演題は、夏の演題登録の時点では例年同様タイトル・要旨・著者情報のみを投稿し、会期前に当日発表資料を英語で作成し提出することとなる。発表資料は会期中～終了後1週間閲覧可能とする予定である。
- ・参加登録費は例年より安く設定した（事前登録の正会員：5,000円、学生会員1,000円）。また当日参加登録も受け付ける（当日参加はクレジット決済のみ）。
- ・情報漏洩防止策として、全ての参加登録者には、視聴サイトへのアクセスの際に、IDを他人に教えないことと、デスクトップ録画やスクリーンキャプチャーをしない旨の誓約を必須とする。プラットフォームの選定や視聴サイトの構築にあたっては、録画や印刷などができないように可能な限りの対策を講じるが、情報漏洩のリスクを完全に防ぐことは

困難も予想されることをあらかじめ発表者に了承いただけるよう案内する予定である。

続いて、出席者より種々の質問、意見、他学会のオンライン開催に関する情報提供などがなされた。

- ・一般演題に関して、発表者側の立場としては、どのような形で発表することになるのか、質疑応答の方法や発表データの取り扱い等を知りたいと思われるので、できるだけ早めに確定情報を案内してほしい。
- ・オンライン開催においては、情報漏洩防止策と共に著作権に関する説明・注意喚起も行うことが重要であろう。
- ・オンライン開催の強みとして、並行しているシンポジウム・ワークショップをオンデマンドで視聴できること、出張せずに参加できるといったメリットを繰り返しアピールするのが有効ではないか。
- ・オンライン開催となったことで海外（特に時差の小さいアジア圏）の研究者・学生が参加しやすくなるので、海外非会員への周知を強化すると良いのではないか。

海外非会員への周知については、まずは近日中に英語・中国語・韓国語で MBSJ2020 Online の案内文を作成して理事会メンバーリストにて配布することとなった。KSMCB の代表等には理事長名で送るほか、理事会メンバーが個人ベースで周知協力する。

3. 第 44 回（2021 年）年会について

塩見美喜子第 44 回年会会長より 2021 年の年会準備状況につき報告がなされた。

会 期：2021 年 12 月 1 日(水)～3 日(金)

会 場：パシフィコ横浜

- ・プログラム委員は比較的若手が多く、また委員全体の 25% が女性である。
- ・年会の国際化対応として、42 回福岡年会の「T 字プログラム」を踏襲し、午前中のプログラムはすべて英語、2 日目は午前午後ともに英語開催のプログラムを常に走らせる予定である。ただし 2 日目の午後には並行して 90 分枠の日本語ワークショップも集め、英語・日本語いずれのセッションにも参加できる構成を目指す。
- ・シンポジウムは午前中の 135 分枠とし、組織委員等による指定シンポジウム 6 企画を行うほか、公募シンポジウム最大 18 企画を採択する予定である。
- ・公募ワークショップ採択予定件数は 135 分枠を最大 61 企画、90 分枠を最大 40 企画とし、いずれの時間枠でも演題の 1/3 程度を一般演題から採択したい。
- ・一般演題ではいわゆるポスターディスカッサー制を導入予定。ただし、すでに討論が盛り上がっている演題に無理に介入する必要はなく、盛り上がりに欠

ける演題のディスカッションの活性化を担うファシリテーターのような存在になってほしいと考えている。ポスター発表は午後最初の時間帯で 150 分間とする。

- ・年会最終日の午後には高校生発表、夕方には市民公開講座を開催する予定。
- ・「横浜ヒストリア企画」として、年会会場に展示コーナーを設け、過去に横浜で開催した年会のポスターや要旨集を展示するほか、過去の横浜年会の年会長にインタビューし、その内容をまとめた小冊子を年会会期中に無料配布したい。

なお、21 期の理事会方針となっている年会の国際化を進めるため、第 42 回年会（2019 年福岡）と第 43 回年会（MBSJ2020 Online）においては、従来の開催補助金 500 万円にくわえ、追加の年会国際化支援金 500 万円の支出が昨年の理事会で決定されている。国際化対応を行う第 44 回（2021 年）年会においても、引き続き同様の予算措置（500 万円の追加補助）をしてもらいたいとの要望が塩見年会長より提出され、承認された。

4. 海外との連携について

①EMBO (The European Molecular Biology Organization)

阿形理事長より今年に入ってから EMBO 関連の動きについて説明があった。本年 2 月 6 日、駐日 EU 代表部ならびに EMBO と共同で Expert Meeting を開催した。これは若手研究者のキャリア形成促進の方法について議論する専門家会議であり、EMBO、日本の政府機関（Funding Agency）である文科省、JST、AMED、JSPS とのつながりができる契機となるものでもあった。4 月には日本が新たに申請可能となった EMBO の Short-term Fellowship 等について本学会ホームページで広報協力を行った。その他、今年の年会ではサテライトで「EMBO laboratory leadership management course + 女性クロマチン研究者による国際シンポジウム」を開催予定である。

②KSMCB (The Korean Society for Molecular and Cellular Biology)

阿形理事長より KSMCB への対応につき、これまでの経緯と最近の動きについて説明がなされた。KSMCB からは 2019 年夏に最初のコンタクトがあり、福岡年会会期中に KSMCB の代表が年会会場を視察し、執行部と会合を行った。KSMCB からは MOU 締結の申し入れがなされており、これに対して本年 3 月、林茂生国際化担当幹事より KSMCB の国際担当委員長宛に、KSMCB の 2020 年大会（10 月に韓国の Jeju で開催予定）への訪問後にあらためて検討したいこと、訪問に際してはコロナの状況をみて確定したいとの回

答を送っている。

《その後、感染症の状況を考慮し、MBSJ、KSMCB の双方、それぞれの大会にオンライン参加する方向となった。MBSJ 側からは、阿形理事長、林国際化担当幹事、稲田庶務幹事が参加する予定》

③ ASCB (The American Society for Cell Biology)

深川竜郎 2022 年会長より、まず、ASCB/EMBO の Cell Bio 2021 (2021 年 12 月にアメリカの San Diego で開催予定) における ASCB メンバーとの共同企画提案について紹介があった。当初は、深川年会長が個人的に研究等で親交のある ASCB メンバーの Cheeseman 氏から Cell Bio 2021 の前日に行われる Door Step Meeting 共同企画の提案を受けたものである。分子生物学会が学会として ASCB と連携していく方向であれば、同企画を両学会のコラボレーションの形としていく交渉も可能とのことである。その後 2020 年に予定されていた Door Step Meeting が 2021 年に延期されることとなり、Door Step Meeting としての共同開催は難しくなったが、Cell Bio 2021 における他のコラボレーション企画の方法がいくつかあり、翌年の 2022 年会の関連企画に繋げるべく、相互交流の機会を目指すことも可能であることが説明された。分子生物学会が学会として ASCB と積極的に連携していく方向を取っていくのかどうか、その関連事業を進めるため深川年会長から要望のあった活動予算措置 (上限 300 万円) について検討が行われた。

ASCB は EMBO と Cell Bio の共催を続けており、もしも最終的に ASCB-EMBO-MBSJ といった大会が実現できれば望ましい国際連携の形の一つと思われる。また ASCB や EMBO から本学会年会への参加を検討してもらえれば年会の活性化にもつながるであろう。

審議の結果、学会として ASCB との連携を積極的に進めていく方向性が承認され、コラボレーション企画の実現に向けて学会として経済サポートをすることが決定された。ASCB との本連携に関する活動予算の目安としては、必要に応じて上限 300 万円程度までであれば支出可能とし、この方針について次期の 22 期理事会に申し送ることとなった。

本件に関連して、「年会国際化」について活発な議論が行われた。提出された主な意見は以下の通りである。

- ・第 21 期理事会が推進する「年会国際化」には「年会の国際化」と「分子生物学会のグローバル化」という 2 つの意味合いがあり、「分子生物学会年会の国際化」という大目標に向けて、「まず世界に日本の研究や研究環境の良さについて知っても

らう」という目的で「分子生物学会のグローバル化」を課題とするという見方もできる。

- ・21 期で始まった「年会国際化 (2019-2023 年の 5 カ年計画)」2 年目の現在においては、海外のコミュニティとの相互理解と連携を一步一步進めていく段階にあり、今回の ASCB との連携に関しても「分子生物学会のグローバル化」という課題に向けた一手であるという位置付けができる。
- ・「年会の国際化」に関しては「5 年後のゴール」をもっと明確にしておいたほうが良いのではないのか。例えば「5 年後の年会では半分を世界に繋げてオンラインで実施し、半分は国内で日本語使用により行う」などといった目標も考える。
- ・現実問題として時差の問題が出てくる。世界規模の学術集会が実現できる際には、開催時間を一年ごとにずらすなどの工夫も必要になる。
- ・多数の欧米の研究者に来日してもらえることは将来的な希望であるが、日本が中心となって韓国、中国、台湾などアジアでも連携してアジアのコアとなる学術集会の実施を目指すのも一つの方策である。

5. その他

① 研究倫理フォーラム 2020 中止について

中島欽一研究倫理委員長より、今年の MBSJ2020 Online では研究倫理フォーラムの開催を見合わせた旨、阿形理事長に申し入れを行い賛同を得たことが報告された。その理由として、COVID-19 の影響で研究遂行そのものが困難になっているという研究室もあり、この状況下では研究倫理に特化した議論が難しいことなどが挙げられた。来年以降の研究倫理フォーラム企画については、今後の状況をみながら検討することとなる。

② 第 10 回富澤基金贈呈式・メモリアルイベントについて

富澤基金による若手研究助成は 2020 年に最終回である第 10 回を迎えた。例年、贈呈式は年会会期中の通常総会の直後に総会会場にて行われているが、今回、MBSJ2020 Online の中では贈呈式のプログラムを組むことはせず、別途、2021 年の年明け以降 (1 ~ 2 月)、本助成事業全体を振り返るメモリアルイベントを実施し、その中で第 10 回贈呈式も行ったらどうかといった提案が阿形理事長より提出され、賛同を得た。

企画については、阿形理事長ならびに小原雄治基金運営委員長に一任された。

- *〔事務局補記〕後日関係者間で再検討した結果、第 10 回富澤基金贈呈式は MBSJ2020 Online にて通常総会終了後に同じ会場 (チャネル) で続けて開催し、メ

モリアルイベントは第44回（2021年）年会会期中に
横浜会場での現地開催を予定することとなった。

③事務局の強化について

出席理事より、事務局の強化、ならびに現事務局長の
定年対応（雇用延長の可能性等）についての意見・
要望が出された。

阿形理事長より、事務局強化、将来的な事務局体制、
福田事務局長の定年対応（現規程では2023年3月末
で定年）等については、来年以降、次期の理事会で検
討してもらう予定であったことが説明された。討議の
結果、本件について今年の定例理事会（21期22期新
旧合同理事会）の議題に挙げることとなった。現執行
部にて事前に検討を進めておきたい。

④監事からのコメント

阿形理事長より発言が求められ、小安重夫・町田泰
則、両監事より、本理事会が公正に適正に機能・運営
されている旨、報告された。

上記、第21期第3回（臨時）理事会の議決および確
認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録
署名人はここに記名押印する。

2020年8月7日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
第21期第3回（臨時）理事会
議 長 阿 形 清 和 ㊟
議事録署名人 稲 田 利 文 ㊟
議事録署名人 木 村 宏 ㊟

第 10 回 (2022 年) 日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ

日本分子生物学会では、昨年に続き、2022 年 (2022 年 1 月～12 月) に開催計画のある国際会議に対しまして支援事業 (開催補助金の助成) を行いますので、ここにお知らせいたします。

分子生物学の黎明期には先鋭的な少人数の若手研究者による会議から革新的な発見と数多くの新分野が誕生しました。科学研究におけるグローバル化とインターネットにおける情報共有が急速に進む現代においても、国際会議において研究者が率直に意見交換を行い相互の理解と信頼関係を深めることはますます重要になっています。質の高い国際会議を日本において開催することは日本発のオリジナルな研究を国際的にアピールし、国際的なリーダーシップを担うために重要です。また、若い時から最新の研究と真摯な議論に接することは研究者育成の要の 1 つと考えられます。本支援は、日本とアジア発の国際会議を育て、我が国の研究を世界に向けて発信する場を設けることを目的として立ち上げられました。

本国際会議支援 (開催補助金の助成) を希望される方は、下記の要項に従って、奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 阿形 清和

■募集要件

1. テーマ：分子生物学に関連した分野において活力の高い議論が期待できるもの。新分野を探索する独自性の高い、萌芽的なテーマも考慮する。
2. 開催規模：参加人数は 50 名以上 400 名程度までとし、そのうち外国からの参加者が少なくとも 20% 程度いること、さらに口頭発表者の中で外国人が 3 割以上を占めることが望ましい。
3. 開催の形式：
 - 1) 主催者あるいは共同主催者が分子生物学会会員を 3 年以上つとめていること。教育・研究機関の主催、研究費主催のものは除きます。(組織委員 (国内) については、できるだけ本学会への入会を推奨します)
 - 2) 共催：他の団体との共催は可とするが、その場合、参加費に関して分子生物学会会員価格 (特に学生会員を考慮されたい) が設定されていることが望ましい。
4. 留意事項：
 - 1) できる限り、国内の若手研究者の口頭発表の機会を作ることが望ましい。
 - 2) 会議開催に際しては、分子生物学会が用意してい

る支援システム (JTB 西日本 MICE 事業部による国際会議トータル支援システム) を利用することができる。本システムは、①基本システム代金：23 万円 (事前参加登録受付・演題投稿受付・カード決済等の基本システム設定)、②オプション / メイン HP 代金：25 万円 (全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月)、③オプション / オンライン査読システム：8 万円、④オプションその他、などからなります。

- 3) 支援が決定した後は、主催者は各種の報告書・広報ポスター・国際会議 HP 等に本学会からの支援を受けて開催されることを、表示する義務を負うものとします。
- 4) 採択された場合には、会議終了後、開催責任者にミーティングレポートを執筆いただきます。学会誌「Genes to Cells」に掲載しますことをご了解ください。
- 5) 残金が出た場合、補助金の返還を求めることがあります。

■開催補助金と件数

援助する金額は、一件あたり 100 万円～250 万円。年間 2 件程度。開催期間・参加予定人数によって金額の変動あり。学術振興会の国際会議等の大型支援を助成された場合は多少の減額あり。

(補助金の使用用途は限定せず自由度を持つものとします。他経費で補えないものが望ましい。ただし国際会議終了後、本学会への会計報告 (収支決算書概要) 提出の義務を有します。また、分子生物学会から支援を受けたことを、HP、要旨集などに明記いただきます。)

■応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

所定の申請書に、国際会議の目的、形態、予定講演者、おおよその予算規模と使用用途等を記載し、電子データで学会へ提出してください。

■申請書送付先

〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会 国際会議支援・選考委員会 御中

TEL : 03-3556-9600

E-mail : info@mbsj.jp

■締切期日 2021年3月31日(水) (必着)

■スケジュール (開催補助金の交付)

- 2021年3月31日：応募締切
- 2021年4月～5月：選考
- 2021年6月：補助金の交付 (予定)

■選考

国際会議支援・選考委員会が選考に当たり、理事長承認のもとに決定します。

(*2021年1月より第22期新理事会に移行します。本事業の審査についても、第22期理事会内に設置されます「国際会議支援・選考委員会」がその選考の任にあたります。委員会構成は決まり次第、学会HPでお知らせいたします。)

分子生物学会による、国際会議支援システム (参加登録～演題受付～カード決済／Web運用) 利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム(JTB西日本MICE事業部による国際会議トータル支援システム/Web運用)をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれているとおりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局(分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係り E-mail: info@mbsj.jp)までE-mailにて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。(一旦、学会を経由してから、JTBの担当者をご紹介します)

《支援システムの概要》

本学会がJTB西日本MICE事業部と長期契約を交わしたことにより、JTB西日本MICE事業部による国際

会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

- ①基本システム代金：23万円(事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定)
- ②オプション/メインHP代金：25万円(全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理12ヶ月・更新メンテナンス12ヶ月)
- ③オプション/オンライン査読システム：8万円
- ④オプションその他、が利用できます。(メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTBの担当者が説明いたします)

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援(システム利用)を受けたことを当該会議のHP、要旨集などに明記いただきます。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.126 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員会審査用に、上記申請書類のコピー計 6 部
- 3) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)
- 4) 上記 1) 2) 3) の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ (論文は不要) を学会事務局 (info@mbsj.jp) まで送信して下さい。
電子データは Word、PDF ファイルのいずれでも結構です。
*必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 正井 久雄
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 吉森 保
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
(本学会の事業年度は 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までです)
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

第21期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2019年1月1日～2020年12月31日)

阿形 清和 (基生研)

副理事長

佐々木裕之 (九大・生医研)、塩見美喜子 (東大・理)

理事

荒木 弘之 (遺伝研)	五十嵐和彦 (東北大・医)
石川 冬木 (京大・生命)	一條 秀憲 (東大・薬)
稲田 利文 (東北大・薬)	上田 泰己 (東大・医)
上村 匡 (京大・生命)	大隅 典子 (東北大・医)
菊池 章 (阪大・医)	木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院)
倉永英里奈 (東北大・生命)	胡桃坂仁志 (東大・定量研)
後藤由季子 (東大・薬)	小原 雄治 (遺伝研)
近藤 滋 (阪大・生命機能)	斎藤 通紀 (京大・医)
佐谷 秀行 (慶應大・医)	中島 欽一 (九大・医)
中山 敬一 (九大・生医研)	鍋島 陽一 (FBRI・先端医療研究センター)
西田 栄介 (理研・BDR)	原 英二 (阪大・微研)
正井 久雄 (都医学研)	三浦 正幸 (東大・薬)
本橋ほづみ (東北大・加齢研)	山本 卓 (広島大・統合生命)
吉森 保 (阪大・生命機能 / 医)	

監事

小安 重夫 (理研・IMS)、町田 泰則 (名大・理)

幹事

庶務幹事	稲田 利文 (東北大・薬)、木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院)
会計幹事	三浦 正幸 (東大・薬)
編集幹事	上村 匡 (京大・生命)
広報幹事	深川 竜郎 (阪大・生命機能)
国際化担当幹事	林 茂生 (理研・BDR)

第21期執行部

阿形理事長、佐々木副理事長、塩見副理事長、稲田庶務幹事、木村庶務幹事、三浦会計幹事、上村編集幹事、深川広報幹事、林国際化担当幹事

Genes to Cells 編集長

西田栄介 (理研・BDR)

賞推薦委員会

正井久雄 (委員長)、後藤由季子、近藤 滋、中山敬一、原 英二

研究助成選考委員会

吉森 保 (委員長)、上田泰己、菊池 章、本橋ほづみ、山本 卓

国際会議支援・選考委員会

石川冬木 (委員長)、荒木弘之、五十嵐和彦、一條秀憲、佐谷秀行

キャリアパス委員会

胡桃坂仁志 (委員長)、木村 宏 (副委員長)、石谷 太、井関祥子、加納純子、
 夾生 (道下) 江利子、倉永英里奈、斎藤典子、鈴木淳史、花嶋かりな、林 克彦、
 山本 卓

研究倫理委員会

中島欽一 (委員長)、大隅典子、小原雄治、斎藤通紀、鍋島陽一

生命科学教育

胡桃坂仁志 (担当理事)、五島剛太 (委員)

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」 第3期 基金運営委員会 (任期：2018年1月1日～2020年12月31日)

小原雄治 (委員長)、林 茂生 (副委員長)、大杉美穂、黒田真也、
 後藤由季子、東山哲也、深川竜郎、阿形清和 (職指定)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2020 年 10 月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
科研製薬株式会社 薬理部
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 seeDNA 法医学研究所
ジェンスクリプトジャパン株式会社
第一三共株式会社 モダリティ研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 バイオテクサポート事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部 バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

(21 社、50 音順)

■第 43 回（2020 年）日本分子生物学会年会 公式サイト

URL: <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント

URL: <https://www.facebook.com/mbsj1978/>

特定非営利活動法人

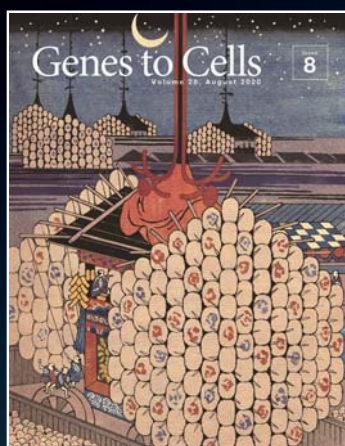
日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp



Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Eisuke Nishida

Frequency: Monthly | Impact Factor 1.655

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界13,000以上の機関で読まれており、年間310,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- カラー掲載料無料
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への収載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Online Open』（有料）を選択できます
- 総説は日本分子生物学会のサポートをうけ、出版と同時に無料公開されます

オンライン投稿はこちら <https://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2018年・2019年出版 引用数TOP論文 *2020年8月現在

The cohesin complex in mammalian meiosis (Volume 24, Issue 1)

Ishiguro, K

PAC1-PAC2 proteasome assembly chaperone retains the core $\alpha 4$ - $\alpha 7$ assembly intermediates in the cytoplasm
(Volume 23, Issue 10)

Wu, W; Sahara, K; Hirayama, S; Zhao, X; Watanabe, A; Hamazaki, J; Yashiroda, H; Murata, S

Involvement of miR-140-3p in Wnt3a and TGF β 3 signaling pathways during osteoblast differentiation in MC3T3-E1 cells
(Volume 23, Issue 7)

Fushimi, S; Nohno, T; Nagatsuka, H; Katsuya, H

Estimated number of off-target candidate sites for antisense oligonucleotides in human mRNA sequences
(Volume 23, Issue 6)

Yoshida, T; Naito, Y; Sasaki, K; Uchida, E; Sato, Y; Naito, M; Kawanishi, T; Obika, S; Inoue, T



iPhone, iPad 用ジャーナルアプリ
を使って閲覧できます。

← 無料ダウンロード

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会員は無料でアクセスできます。

初回ユーザー登録は学会事務局まで (info@mbsj.jp)

登録後の問合せはWileyまで (cs-japan@wiley.com)



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第128号 (2020年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——阿形 清和